

## 第2回「万葉集・明日香村」を中心とした授業づくりセミナー 概要報告

奈良教育大学 大西 浩明

◇日時 令和2年8月22日(土) 10時00分～12時00分

◇方法 Zoomによるオンライン会議システム

◇参加者 石田(佐保川小)・石原(平城小)・篠原(深圳日本人学校)  
岩城・真地・小林・川田・津田・山崎・前田・池田・福田(学生)  
井上・竹内・山本(万葉文化館)  
米田・大西(奈良教育大) 計17名

◇内容

1. 講演 「万葉集の基礎知識」 奈良県立万葉文化館指導研究員 井上さやか氏  
マンガによる万葉集の紹介

わが園の梅の花散る ひさかたの天より雪の 流れ来るかも(巻五・八二二) 大伴旅人  
太宰府の長官だった旅人が梅見の宴を催したときの歌 梅は当時日本では珍しかった  
万葉集の中では梅の花はすべて白 元ネタは中国  
万葉仮名による

令和…梅花の歌の序文「初春の令月にして、気淑く風和らぎ…」 おだやかな風景の描写  
歌集から採用されるのは初めて

百人一首との関わり 百人一首は、新古今和歌集の形(鎌倉時代)

春過ぎて 夏来にけらし 白妙の衣ほすてふ 天の香久山 持統天皇

飛鳥時代の歌 百人一首では持統天皇が十二単を着ている…あり得ない

読み方なども変えられている 「衣ほすてふ」ではなく本来は「衣ほしたり」

「衣がほしてある天の香具山」が「衣をほすという天の香具山」という想像上の風景を詠んだ内容に変わっている。

田子の浦 打ちいでてみれば 白妙の富士の高嶺に 雪は降りつつ 山部赤人

万葉集では「雪は降りける」…雪は降った 富士山信仰

「雪は降りつつ」…雪が降っている 幻想的

その時代に好まれるようにアレンジしたのが百人一首

万葉びとの「四季観」 四季の分類は奈良時代から始まった

旧暦なので今の感覚とは少しずれている

春 1～3月 夏 4～6月 夏 7～9月 冬 10～12月

季節ごとの分類が行われているのは、巻八と十のみ 大伴家持が編纂

これ以降、四季の景物を詠み込むことがさかんになっていく

古今和歌集(平安時代)以降、和歌に欠かせないものとなっていく

巻八と十には秋の歌が多い(784首のうち441首) 悲しみと結びついて作りやすい

采女の 袖吹きかへす 明日香風 都を遠み いたづらに吹く 志貴皇子

飛鳥浄御原宮から藤原宮へ都が移った後に謳われた歌

距離的にはさほど離れていないにも関わらず、遠くに行ってしまったと詠んでいるのは、藤原京の中央集権国家へと社会体制が変化していくことへの思いか

「時代が変わった」 社会的な隔たりを感じた「心の距離感」

「飛鳥」と「明日香」 歌の世界ではどちらもある

飛ぶ鳥の 明日香の里を 置きて去なば 君があたりは 見えずかもあらむ 作者未詳

「飛ぶ鳥」は褒め言葉・・・人も鳥も生き物が豊かに暮らせる場所、永遠のふるさと  
枕詞であったものが、いつしか飛鳥（あすか）と読むようになった

恋の歌 今とは違う 名前を聞くことがプロポーズ

紫は 灰指すものぞ 海石榴市の 八十の衢に 逢へる見や誰 作者未詳

たらちねも 母を呼ぶ名を 申さめど 路行く人を 誰と知りてか 作者未詳

歌のやり取りから恋が始まる

海石榴市（桜井市）は古代から市場が栄えた場所 古くからさかんに歌垣が行われていた

「歌垣」今でいう集団お見合い 女性の心をとらえる歌を咄嗟に詠めるスキル

万葉集の一番歌は、大王（雄略天皇）の求婚

## 2. 講演を受けてのグループワーク、質疑応答

- ・時代の流行りによって和歌が少し変化していたが、時代の流行りとはどのようなものであったのだろうか？

歌を理解するときに、衣や袖など生活の違いも起こっている

言葉の発展形

- ・語などから時代や情景、風景が読み取れるのが興味深い。いつの時代も言葉は大切だなと思う。
- ・奈良はやはり地の利があるので、それを生かしていくことが児童生徒にとって万葉集を引きつけるきっかけになるだろう。また、書道ともいろいろと絡めていけるだろうという展望もあった。 ➡ これはできそう
- ・2句切れの歌を潜在的に3句切れで教えてしまっている節があるかもしれない。歌の背景(万葉集など)を踏まえると国語の楽しさもより伝えられるのではないか
- ・長安はシルクロードの拠点ともなるので、そこに注目すると奈良と中国だけではなく西洋とのつながりも見えるのでは？

インドや中国とのつながり、さらには西アジアとのつながりが見えるものもある。

- ・万葉集は秋の歌が多いが、古今和歌集や新古今和歌集は？
- ・この頃の子供の言葉遊びはあるか？ 早口言葉、意味のない言葉を続けるなどがある

※山本さんから万葉文化館の作品作り募集のお知らせ

～みんなで万葉文化館に作品を飾ろう！～ 第2回万葉ギャラリー 作品募集

- ・『万葉集』の歌から感じたこと、想像したこと、また、『万葉集』からイメージすることなどを  
絵画や書で描いた作品を募集いたします。 ➡ 「詩があったらいいのになあ」
- ・絵画、書とも題材となる『万葉集』の歌を指定する「①課題の部」と、指定せずに自由に題材  
を選べる「②自由の部」の2部門があります

### 3. ESD の授業づくりについて

ESD の授業である限り、探求的な学びになるよう授業づくりを行うことが大切

そのためには、問いの質を高めていきたい

問いの質を高めることで、より主体的で深い学びとなっていく

子どもの発言や思いなど、学習者の思考の流れが分かるように授業構想を作ることが重要

次回、授業構想を提案する人は、A4 1枚程度のものを用意して提案してください

#### ※ 篠原先生より

読書会をオンラインでやっています。興味のある人（特に学生）は、メール連絡ください。

次回 10月17日（土）授業構想案の検討（おそらくオンライン）

授業構想案の交流 岩城さん、池田さん、篠原先生、石原先生